

# Planetary Healthに関する 取り組み事例と日本に向けた示唆

2021年6月30日

Center on Global Health Architecture

事務局: ソーシャルインパクト・パートナーシップ事業部

インターン 畠山航也

# 目次

---

I. はじめに	3
II. 人間の経済活動と気候変動	5
III. プラネタリーヘルスの誕生	9
IV. これまでの健康概念の変遷と比較	12
V. プラネタリーヘルス推進・普及活動の母体を担うPlanetary Health Alliance	15
VI. プラネタリーヘルスに関連した取り組み	19
VII. プラネタリーヘルスの課題とこれから	24
– 超学際的な取り組みを推進できるか?	26
– 民間企業を巻き込めるか? 経済活動と地球環境との両立	28
– プラネタリーヘルスとカーボンニュートラルの親和性を高められるか?	29
– プラネタリーヘルスへの誤った理解、形骸化を防げるか?	31
VIII. さいごに	32

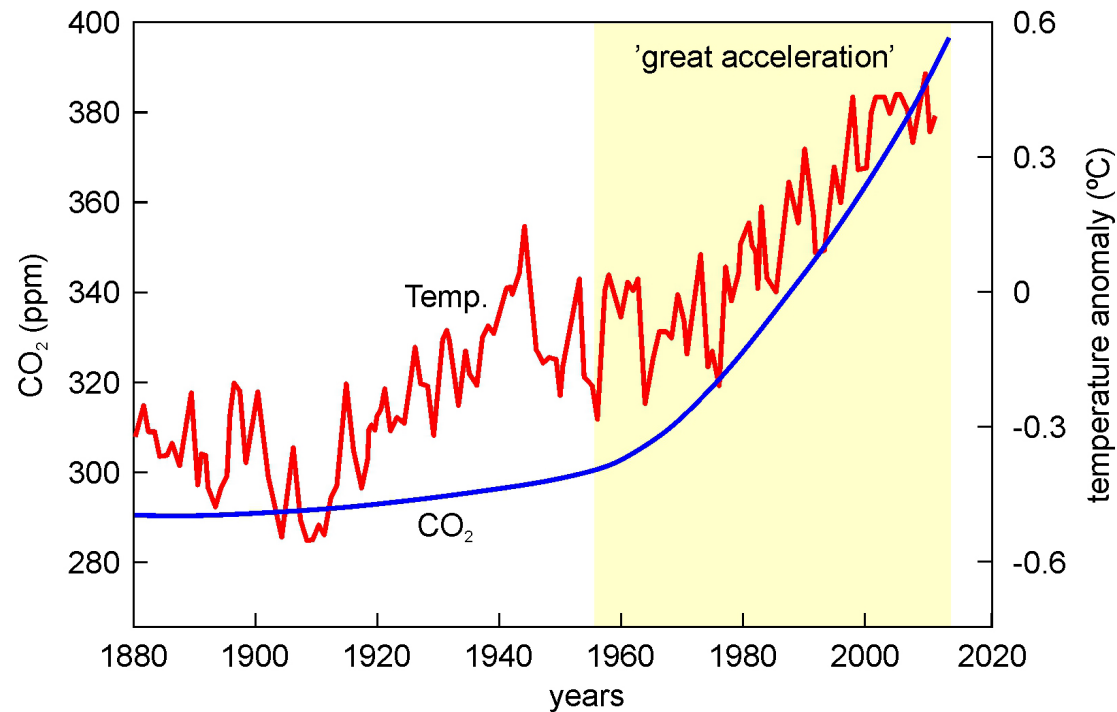
---

# 1. はじめに

# はじめに

## アントロポセン(人新生)の時代

- 人類の発明や技術革新を通して、人々の暮らしは豊かになり健康状態も向上した
- 1950年頃より、人類の活動が自然生態系に大きな影響を及ぼすようになった
- 自然環境への配慮を欠いた人類の開発・発展により、地球温暖化、大気汚染、海洋酸性化、森林破壊といった地球規模の課題が発生してきている



(出所) V.Rull, (2017) The "Anthropocene" uncovered. *Collectanea Botanica*, 36, 008.

(出所) Whitmee, S, (2015) Safeguarding human health in the Anthropocene epoch: Report of the Rockefeller Foundation-Lancet Commission on planetary health. In *The Lancet* (Vol. 386, Issue 10007, pp. 1973–2028).

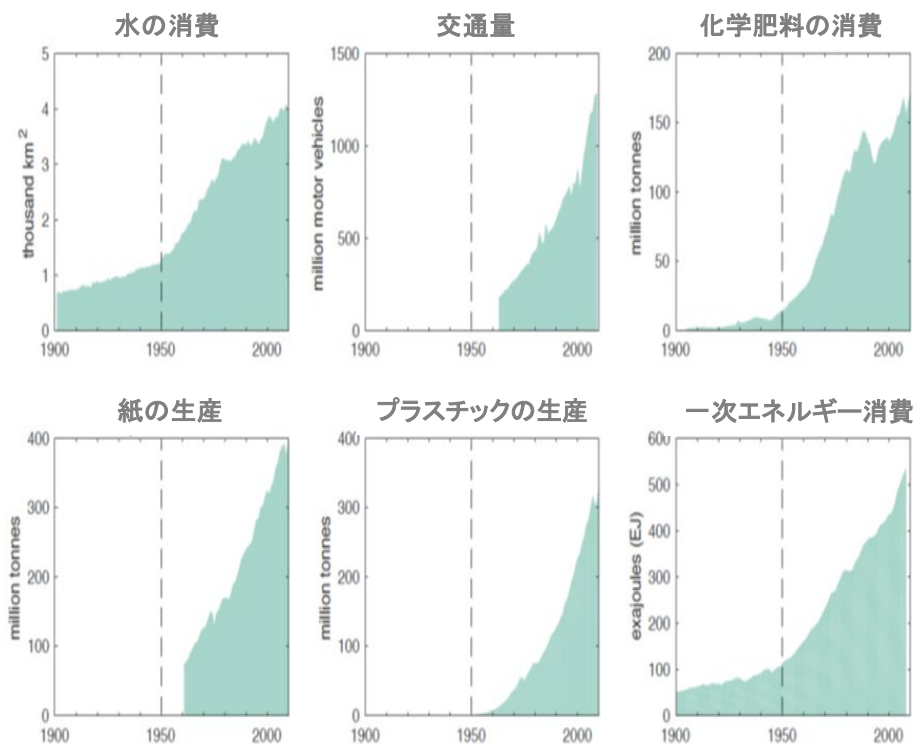
---

## II. 人間の経済活動と気候変動

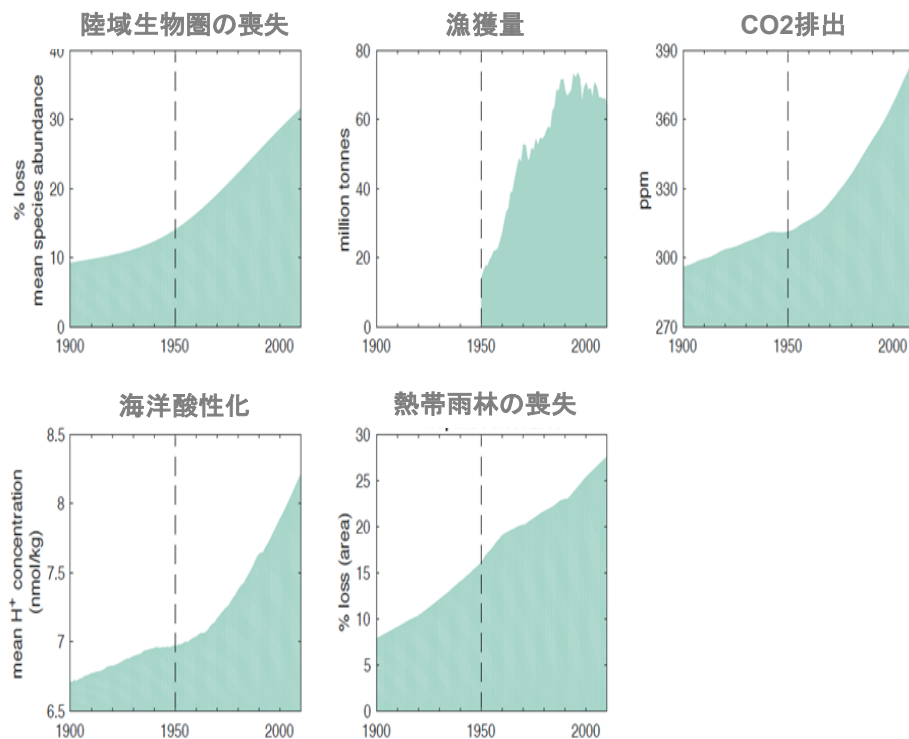
# 人間の経済活動と気候変動

## ■ 人類の経済活動と自然生態系の負荷の間に相関関係がみられる

### 人類による経済活動の増加



### 自然生態系における負荷の増大



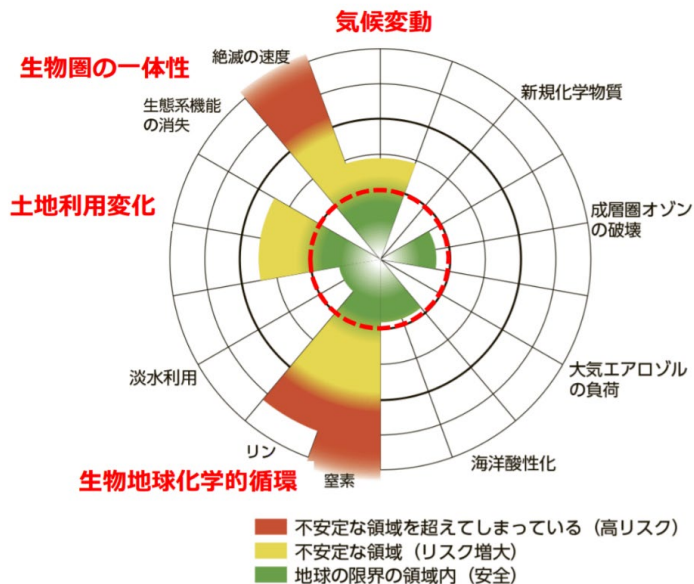
(出所) Planetary Health Alliance, (2021) PLANETARY HEALTH AN INTRODUCTION

# 人間の経済活動と気候変動

- プラネタリーバウンダリーやエコロジカルフットプリントにより地球の限界が指摘される

## プラネタリーバウンダリー

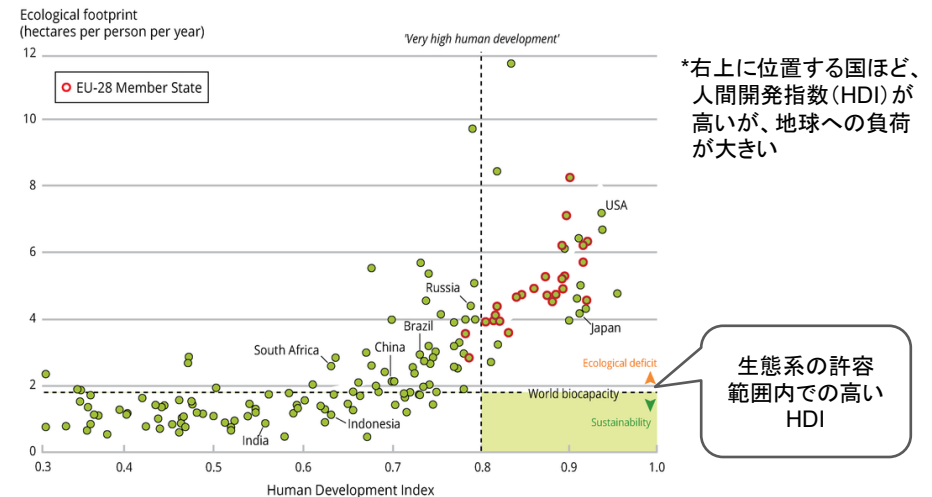
- 持続的な人類繁栄と地球環境の共存のために超えてはいけない地球の限界線を9つの環境指標にて評価
- 4つが既に地球の限界となる領域を越えている



資料：Will Steffen et al.「Planetary boundaries :Guiding human development on a changing planet」より環境省作成

## エコロジカル・フットプリント

- 人間生活がどれほど自然環境に依存しているかの指標
- 人間が現在の社会・経済活動を維持したまま暮らしていくには地球1.6個分(生産可能土地面積)が必要

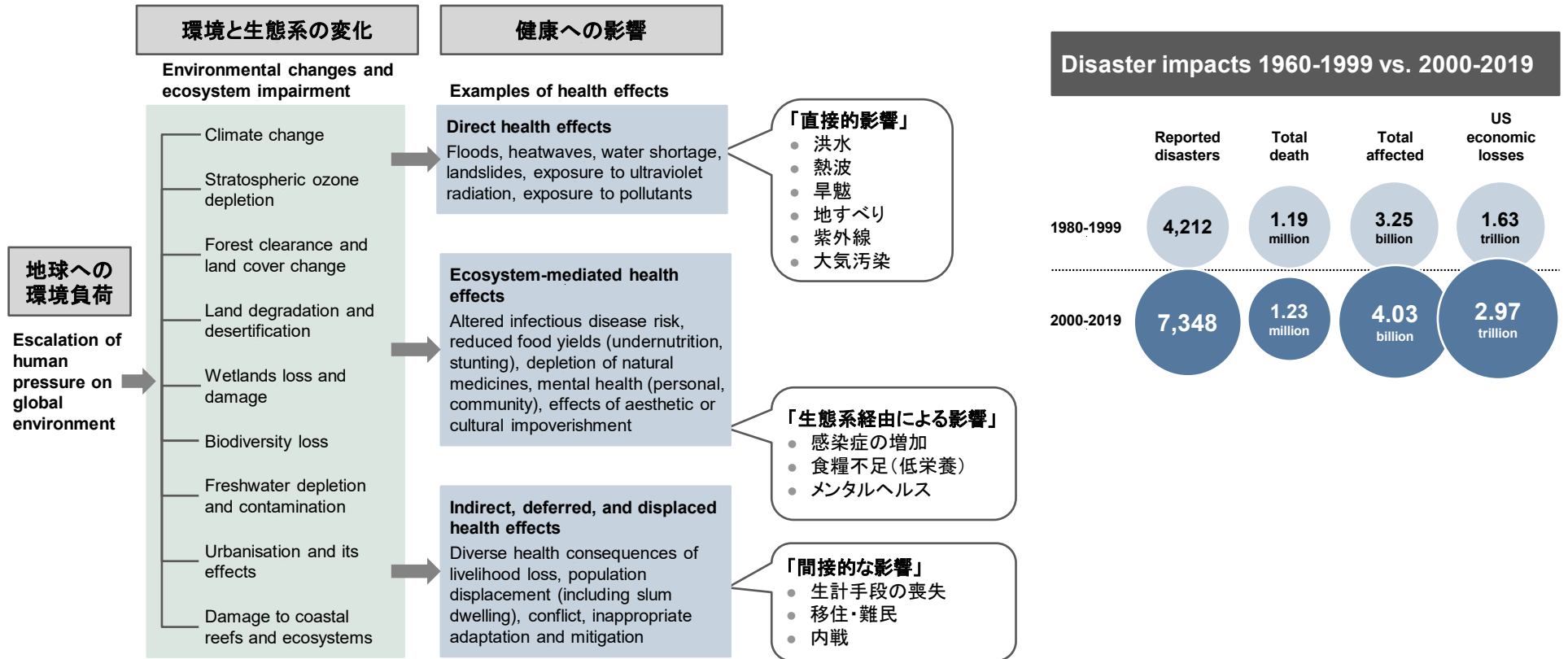


(出所) 環境省, (2017)環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書

(出所) European Environment Agency, (2021) <https://www.eea.europa.eu/data-and-maps/figures/correlation-of-ecological-footprint-2008>, (Access, 2021-06-22)

# 人間の経済活動と気候変動

- UNDRRによると、2000-2019年における災害数や災害関連死者・被災者数、被害額が増加している
- 人間によって引き起こされた地球規模の課題は、災害や異常気象現象を通じて直接的に人間の健康を脅かすだけでなく、間接的にも影響も与えることが明らかになってきている



(出所) UNDRR, The Human Cost of Disasters: An overview of the last 20 years (2000-2019)

(出所) Whitmee, S. (2015) Safeguarding human health in the Anthropocene epoch: Report of the Rockefeller Foundation-Lancet Commission on planetary health. In The Lancet (Vol. 386, Issue 10007, pp. 1973–2028).



---

### III. プラネタリーヘルス(PH)の誕生

# プラネタリーヘルス(PH)の誕生

- 地球と人間は別々の存在ではなく、相互依存関係にあることを前提に置き、全ての生態系と地球の健康の共存を目指すプラネタリーヘルスという概念が誕生した
- プラネタリーヘルスはランセット誌の主任編集者であるリチャード・ホートンにより、“From public to planetary health: a manifesto (2014)”の論文内で初めて活用された新しい用語である
- 2015年にロックフェラー財団とランセット誌が「Rockefeller Foundation-Lancet Commission on Planetary Health」を立ち上げたことで、世界的な広がりを見せている

## 定義

人間と人間が依存する自然生態系の健康

“[T]he health of human civilization and the natural systems on which it depends”

## 目的

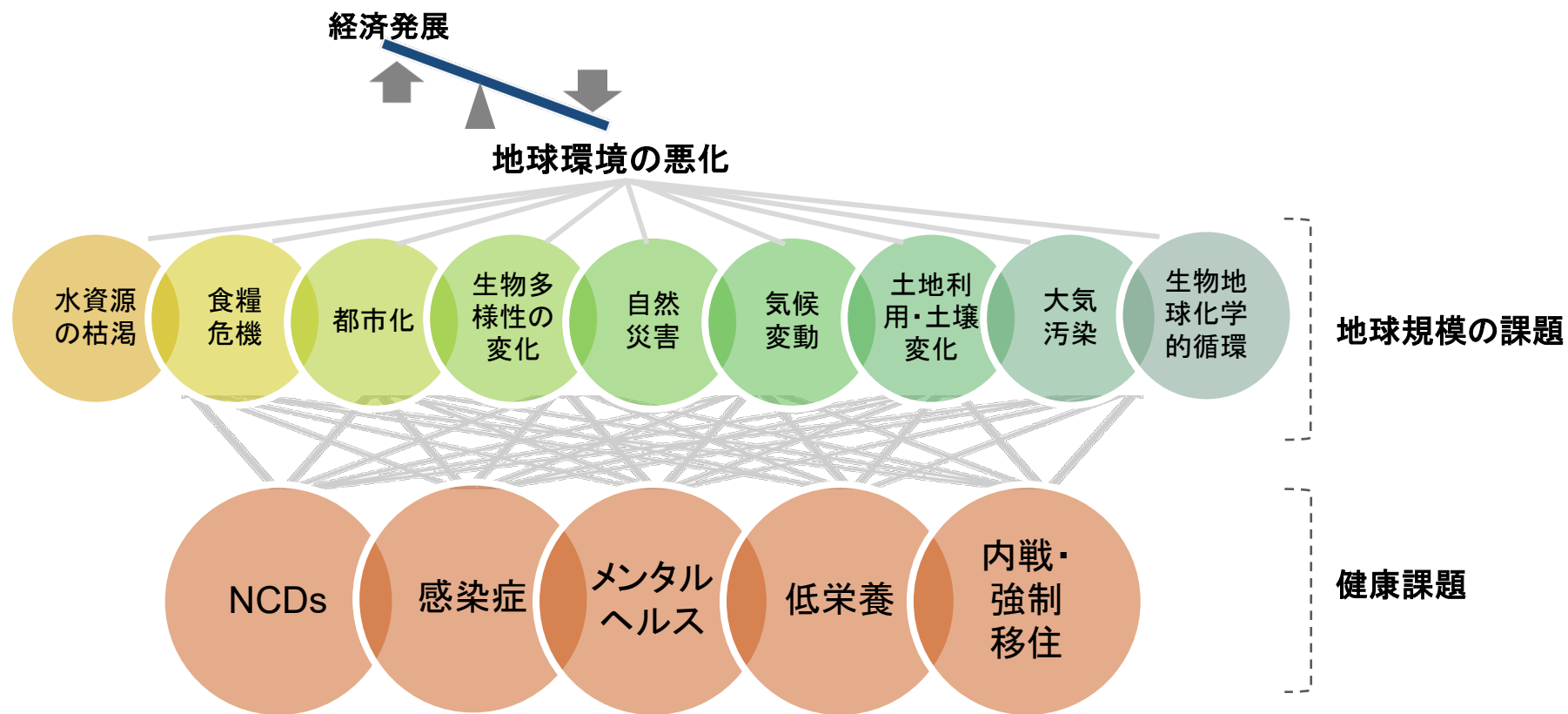
- 地球の健康という概念の下に、すべての生態系の健康と持続可能性を包括的に向上・改善させる
- 持続可能性という観点から、将来の人々の健康へも意識を向ける
- 超学際的(Transdisciplinary)な研究や政策を促進させる
- プラネタリーヘルスの名の下に統合、協働することで人・物・資金的資源の最適効率化を図る

(出所) Whitmee, S. (2015) Safeguarding human health in the Anthropocene epoch: Report of the Rockefeller Foundation-Lancet Commission on planetary health. In The Lancet (Vol. 386, Issue 10007, pp. 1973–2028).

# プラネタリーヘルス(PH)の誕生

## プラネタリーヘルス概念図

- 人類の経済発展と引き換えに地球環境が悪化し、気候変動を含む様々な地球規模の課題が発生している
- 地球規模の課題は既存の健康課題と複雑に関連し合い、互いに悪影響を増強する負の連鎖を引き起こす

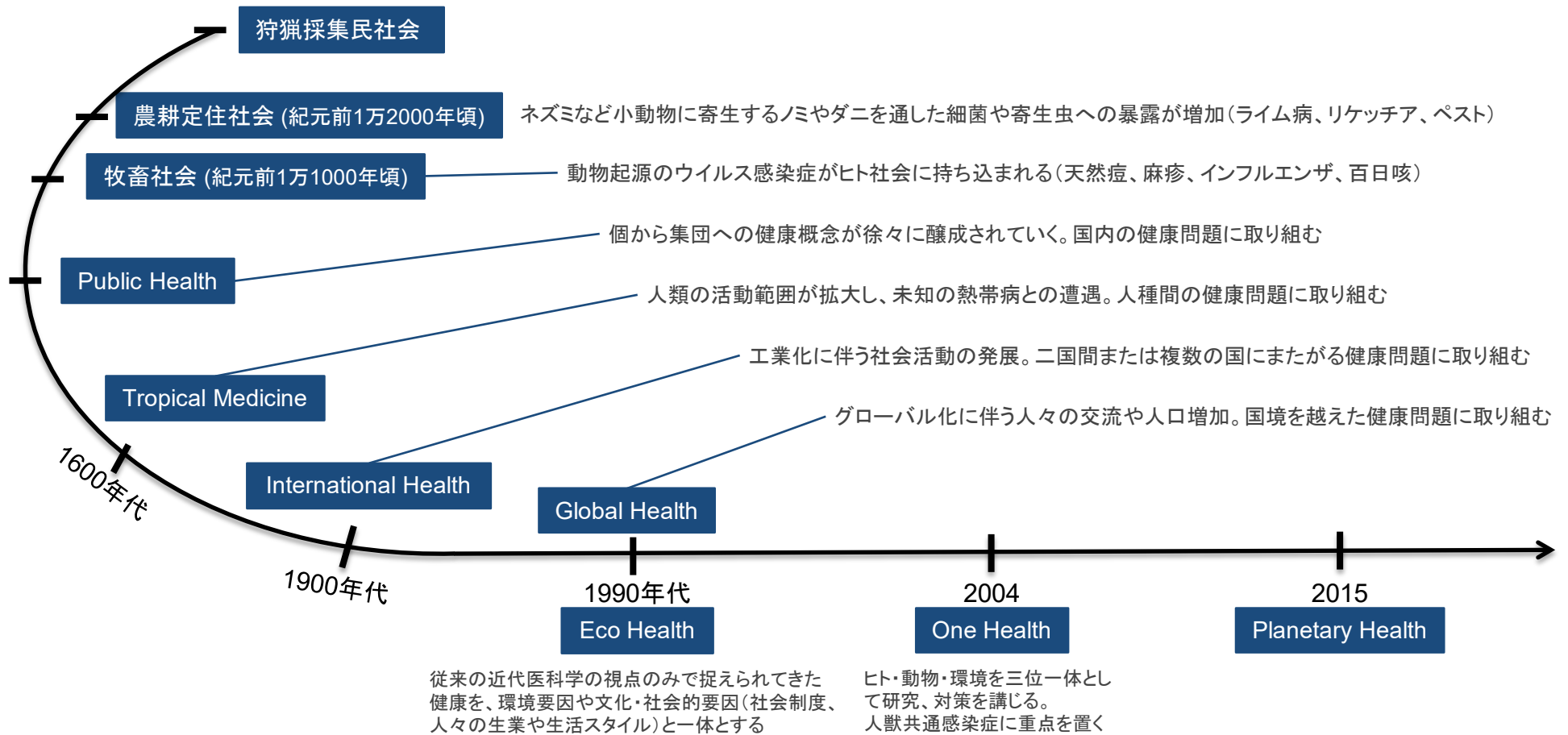


---

## IV. これまでの健康概念の変遷と比較

# これまでの健康概念の変遷と比較

## ■ 健康概念の変遷は人類の経済発展、社会生活、行動様式、文化などに大きく影響を受けている



(出所) Brown, T. M., (2006). The World Health Organization and the transition from international to global public health. In American Journal of Public Health (Vol. 96, Issue 1, pp. 62–72).

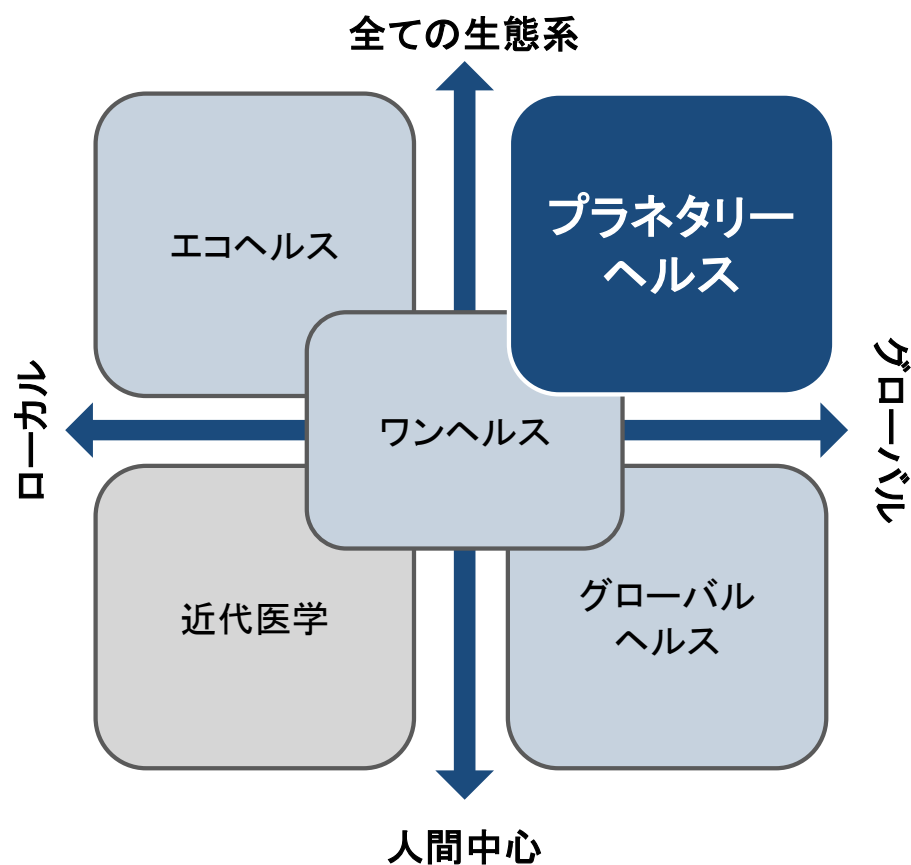
(出所) Hein Mallee, (2014). エコヘルスをめぐる世界の動向. 医学の歩み, 249(2).

(出所) 山本太郎, (2014). 進化とエコヘルス. 医学のあゆみ, 250(3).

# これまでの健康概念の変遷と比較

## プラネタリーヘルスとは

- 国だけでなく、動物、地球、経済・開発等との境界をも越えており、グローバルヘルスやワンヘルスよりもさらに広義な意味を持つ
- 全ての生態系や地球環境との共生を図るという点はエコヘルスと共通
- 持続可能性という観点から「ヒトの健康」を捉えたことで、将来や次世代の健康にも取り組むという時間的要素を考慮
- 健康を切り口として多分野・領域からの参画が可能で包括的で超学際的な健康概念へと発展



---

## V. PH推進・普及活動の母体を担うPlanetary Health Alliance (PHA)

# PH推進・普及活動の母体を担うPlanetary Health Alliance (PHA)

- PHの推進・普及の中心的な役割を担う団体として、ロックフェラー財団やハーバード大学から支援を受け2016年に発足
- PHの名の下に幅広い分野・領域にまたがる知識・技術を集結させた超学際的なコミュニティを構築し、世界的な環境変化による健康影響を軽減するための施策・研究・教育の後押しをする
- 現在、約50か国から250を超える大学、NGO、研究機関、政府機関によるコンソーシアムを形成

## 主要な4つの活動

1. プラネタリーヘルスコミュニティの促進と強化  
( Encourage and empower a diverse global planetary health community )
2. 教育とトレーニングの促進  
( Facilitate the education and training )
3. プラネタリーヘルス科学、物語、解決策の浸透  
( Mainstream planetary health science, stories and solutions )
4. 実行可能な取り組みの推進  
( Promote actionable steps )



(出所) Planetary Health Alliance. <https://www.planetaryhealthalliance.org/planetary-health>, (Access, 2021-06-22)



# IV. PH推進・普及活動の母体を担うPlanetary Health Alliance (PHA)

## 1. プラネタリヘルスコミュニティの促進と強化

- 多様な分野、研究領域、世代、価値観、地域により構成されるプラットフォームを形成
- 国、地域、個人といった様々なレベルから超学際的な解決策やアプローチを支援
- PH推進に重要な役割を担う医療者ワーキンググループを結成
- Planetary Health Alliance Regional Hub (2019年)を設立し、地域毎の協働やネットワーク構築、課題分析、新たなソリューションの実装を推進。現在、10の地域ハブを有す
- Planetary Health Annual Meeting (PHAM)を開催(2021年は4.25~4.30に開催)



## 2. 教育とトレーニングの促進

- 大学や教育機関におけるPH教育への支援
- PH教育のためのガイドライン策定、教育教材の共有、教育コミュニティの形成
- Planetary Health Next Generation Network活動としてPlanetary Health Campus Ambassador (PHCAs)を任命し、教育機関での普及活動、PHリーダーを担う人材育成
- 「Planetary Health Case Studies: Anthology of Solutions」が無料でダウンロード可能  
学習者と教育者が理論と実践を効果的に結び付けるための学習目標と指導ガイド



(出所) Planetary Health Alliance. <https://www.planetaryhealthalliance.org/planetary-health>, (Access, 2021-06-22)

# PH推進・普及活動の母体を担うPlanetary Health Alliance (PHA)

## 3. プラネタリーヘルス科学、物語、解決策の浸透

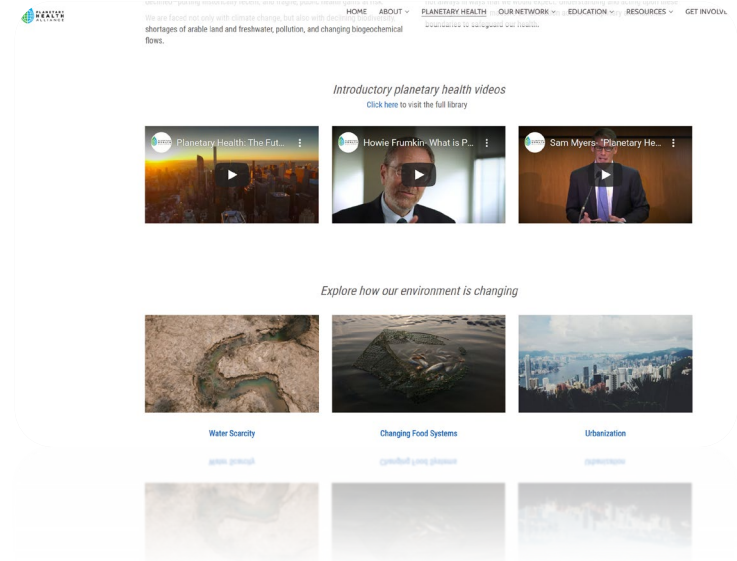
- PHAでは9つの地球規模の課題と5つの主要な公衆衛生上の健康課題に分類している
- 各分類に従って動画や資料が整理され、PHIに関する理解を推進している

### 「地球規模の課題」

- 1) 水資源の枯渇
- 2) 食糧危機
- 3) 都市化
- 4) 生物多様性の変化
- 5) 自然災害
- 6) 気候変動
- 7) 土地利用や土壌の変化
- 8) 大気汚染
- 9) 生物地球化学的循環

### 「主要な公衆衛生上の健康課題」

- 1) 非感染性疾患 (NCDs)
- 2) 感染症
- 3) メンタルヘルス
- 4) 低栄養
- 5) 内戦・強制移住



## 4. 実行可能な取り組みの推進

- PHを提唱し、進歩を遂げるために個人と社会が実行できる取り組みの促進

(出所) Planetary Health Alliance. <https://www.planetaryhealthalliance.org/planetary-health>, (Access, 2021-06-22)

---

## VI. プラネタリーヘルスに関連した取り組み

# プラネタリーヘルスに関連した取り組み

## 事例1 E-7. Impossible Foods: Creating Plant-Based Alternatives to Meat @Singapore, Hong Kong, USA, Macau



NCDs × 土地・水利用削減 × CO2削減  
× スタートアップ企業

### [Problem]

現在、動物性食品の大量消費により糖尿病、癌、心疾患を発症するリスクが増加している。また畜産部門は、世界の温室効果ガス排出量の7分の1を生成し、淡水の約3分の1を必要とするとの報告がある。

### [Solution]

食品会社インポッシブルフーズは、肉製品の市場需要に取って代わる植物ベースの代替肉を提供することで、生活習慣病対策や水資源の保全、CO2削減に貢献する。代替肉を使用したインポッシブルバーガーは牛肉と比較して、土地利用96%削減、淡水利用87%削減、CO2放出89%削減、そして淡水生態系汚染を92%削減させることができる。

## 事例2 E-11. Sri Lanka Mangrove Conservation Project @Sri Lanka



低栄養 × 環境保全 × CO2固定 × 雇用創出 ×  
漁獲量増加 × 自然災害対策 × NPO

### [Problem]

マングローブは大量のCO2を長期間固定する能力があり、一般的な木々と比較し最大50倍多くのCO2を貯蔵できる。しかし、過去50年間の人類の活動(エビ養殖場、耕作地、ウォーターフロント開発、森林伐採等)により世界の半数のマングローブ林がすでになが喪失したとの報告がある。

### [Solution]

NPO環境保護団体のシーエコロジーは、マングローブ保護に関連した生計訓練とマイクロローンを提供することにより、現地住民の経済的安定性の向上、栄養と健康の向上、家族の経済安全保障の向上、高潮に対する回復力の向上に貢献する。また、スリランカはマングローブ林の保護を誓約した世界初の国であり、自然保護を通じたCO2固定により気候変動を緩和するリーダーとして、他の国々への模範を示している。

(出所) Planetary Health Alliance. <https://www.planetaryhealthalliance.org/planetary-health>, (Access, 2021-06-22)

# プラネタリーヘルスに関連した取り組み

## 事例3 D-6. Typhoid and Torrents: Watershed Interventions for Systems Health (WISH) @ Fiji



感染症 × 土壌・水質管理 × 災害対策  
× デジタルツール × アカデミア

### [Problem]

フィジーでは、デング熱、腸チフス、レプトスピラ症などの水系感染症が拡大傾向にある。現地農村コミュニティは生活・社会活動を近隣の水源に大きく依存している。しかし、近年トイレや生活廃水等により環境汚染が深刻化し、水系感染症拡大・増悪の原因の一つと認識されている。更に、サイクロンや洪水等の自然災害後には広範囲の感染流行が発生することも報告されている。

### [Solution]

このプロジェクトは、リアルタイムのモバイルツールの開発や実装、ハザードマップの作製、コミュニティを主体とした流域森林の環境保全活動等により水、衛生、集水域管理を最適化し、水系感染症の減少と水質・土壌改善を目指している。

## 事例4 E-5. Electriciens sans frontières: Providing “Emergency Pockets” of Solar Energy @Dominica



ヘルスケアセンター機能強化 × 電力安定化 ×  
CO2削減 × NGO

### [Problem]

ドミニカではハリケーンの頻度と猛威の増加が、住民や島の重要なインフラに壊滅的な影響を及ぼしている。特に自然災害時は、貧困層のコミュニティは地理的に孤立し、首都へのアクセスが困難となるため、健康被害を被った際に死亡リスクが高くなる。

### [Solution]

Electriciens sans frontières (国境のない電気技師)は、ドミニカにおける保健医療施設の評価および改善を通して、自然災害後のレジリエンス強化に貢献する。具体的には、スタンドアロンの太陽光発電キットを島の6つのヘルスセンターに設置し、再生可能エネルギーの活用による電力安定化を行っている。これにより気候変動への緩和(災害時の緊急医療ニーズへの対応)と対策(エネルギーミックスによるCO2排出削減)へ同時に取り組んでいる。

(出所) Duff, H., (2020). Planetary Health Case Studies: An Anthology of Solutions

(出所) Planetary Health Alliance. <https://www.planetaryhealthalliance.org/planetary-health>, (Access, 2021-06-22)



## VI. プラネタリーヘルスに関連した取り組み

### 事例5 A. 長崎大学

- 2020年に「プラネタリーヘルスに貢献する大学」を目指す宣言
- PHAIにも加盟
- 長崎大学が目指すプラネタリーヘルスとは
  - 地球規模の課題解決に向けて分野や領域を越えた多面的な知の連鎖を誘発する
  - PH研究・活動を担うプラネタリーヘルスマインド\*を持った人材を輩出する
    - \* プラネタリーヘルスマインドとは特定の立場や、既存の分野、領域にとらわれない複眼的視点を持ち、課題に向き合う姿勢
- 長崎オープンイノベーション拠点(2020年7月1日に立ち上げ)
  - 「AI・IoT・ロボット」、「海洋」、「医工連携・ライフサイエンス」、「航空機産業」、「アントレプレナー・スタートアップ」の五つの主な領域を設定し、産学官の有機的な連携を推進する
  - 地元企業、県内進出企業、地元経済界、関連協議会、県内市町村、県内外の他大学・高専などと一体となり地域と地球規模の課題解決の実現に取り組む
- 感染症研究施設 バイオセーフティーレベル(BSL)4
  - 感染症研究拠点の整備・研究力強化にも力を入れている



(出所) 河野茂. (2021). プラネタリーヘルスとオープンイノベーション. 産学官連携ジャーナル.

(出所) 長崎大学. <https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/campuslife/guide/planetaryhealth/index.html>, (Access, 2021-06-22)

# プラネタリーヘルスに関連した取り組み

～ PH関連事業マトリクス～

- 健康課題と地球規模の課題の両方に取り組む、様々な組み合わせの取り組みが開始されている
- PH関連の取り組みの多くはCO2削減に貢献している
- メンタルヘルスへの取り組みは、調査期間内には確認できなかった

5つの健康問題



ID	プラネタリーヘルス関連の取り組み	「地球規模の課題」									
		水資源の枯渇	食糧危機	都市化	生物多様性の変化	事前災害	気候変動 (CO2削減)	土地利用や土壌の変化	大気汚染	生物地球科学的循環	その他
A	長崎大学										教育*研究促進
B	新たな学術論文の発行										研究推進
C	The Future Earth Health Knowledge-Action Network (Health KAN)										連携強化
D-1	Health and Haze @Southeast Asia										
D-2	Dams and Disease @Senegal										雇用創出
D-3	Medical Clinics for Planetary Health @Indonesia										コミュニティ*ヘルスケアアクセス
D-4	Going Circular @Chile										
D-5	Putting Food Needs First @Madagascar										
D-6	Typhoid and Torrents: Watershed Interventions for Systems Health (WISH) @Fiji										
D-7	Today's solutions for future of Food: Food app "Too Good To Go" @Europe										アプリケーション*フードロス減少
D-8	Family Planning for People and Plant @Uganda, Kenya										ファミリープランニング
D-9	The Maori Interconnectedness of People and Planet @New Zealand										少数民族
E-1	Alipay Ant Forest: Using Digital Technologies to Scale up Climate Action @China										デジタルテクノロジー*企業
E-2	Cleaning our Oceans of Plastic @Hiti										雇用創出*ごみ問題
E-3	Climate-Efficient School Kitchens and Plant-Poered Pupils @Germany										
E-4	Composting Waste Treatment: An Ecological Solution to Poverty and Climate Change @Hiti										雇用創出*ジェンダー
E-5	Electriciens sans frontières: Providing "Emergency Pockets" of Solar Energy @Domenica										医療施設機能強化*電力供給安定化*NGO
E-6	Ghent en Garde: Creating Structural Change through Local Food Policy @Belgium										NGO
E-7	Impossible Foods: Creating Plant-Based Alternatives to Meat @Singapore, Hong Kong, USA, Macau										スタートアップ
E-8	Reclaiming Global Waterways and Beaches @France										ごみ問題
E-9	Restoring Peatlands in Russia @Russia										アカデミア*財団
E-10	Santiago Biofactory @Chile										バイオガス*民間企業
E-11	Sri Lanka Mangrove Conservation Project @Sri Lanka										NPO*雇用創出
E-12	Sustainable Energy for Safe Childbirth @Ethiopia, Sierra Leone, Liberia, Uganda, Tanzania, Kenya, Nepal										母子保健*エネルギー供給

「公衆衛生の健康課題」

\*その他には、各事業における特徴的なキーワードを抽出し記載している

---

## VII. プラネタリーヘルスの課題とこれから



# プラネタリーヘルスの課題とこれから

---

- PHは提唱されたばかりの新たな概念である
  - 世界的に見ても取り組み事例は依然として多くはない
  - PHへの期待は高いものの、今後の舵取り次第で持続可能な未来が描けるかが決定される
- 
- PHを社会に浸透させ、具体的なアクションに繋げるための課題を以下4つの問いによりまとめる
    1. 超学際的な取り組みを推進できるか？
    2. 民間企業を巻き込めるか？ 経済活動と地球環境との両立
    3. プラネタリーヘルスとカーボンニュートラルの親和性を高められるか？
    4. プラネタリーヘルスへの誤った理解、形骸化を防げるか？

# プラネタリーヘルスの課題とこれから

## 1. 超学際的な取り組みを推進できるか?

### ■ 超学際的な取り組みに寄与したグッドプラクティス事例を集め、積極的に取り入れる

- PHAは個人から国際機関、アカデミアと多岐にわたるステークホルダーをPHの名の下に集わせるプラットフォーム
- 長崎大学が新たに立ち上げた長崎オープンイノベーション拠点は、他分野・研究領域間の融合を促進する拠点である。また、将来の超学際的な取り組みに資するプラネタリーヘルスマインドを有す学生を輩出することで、長期的な視点からもPHに貢献している

### ■ 北欧・ヨーロッパの動向を注視し、積極的に学び取り、産官学民を通じて日本のコンテンツに変換する

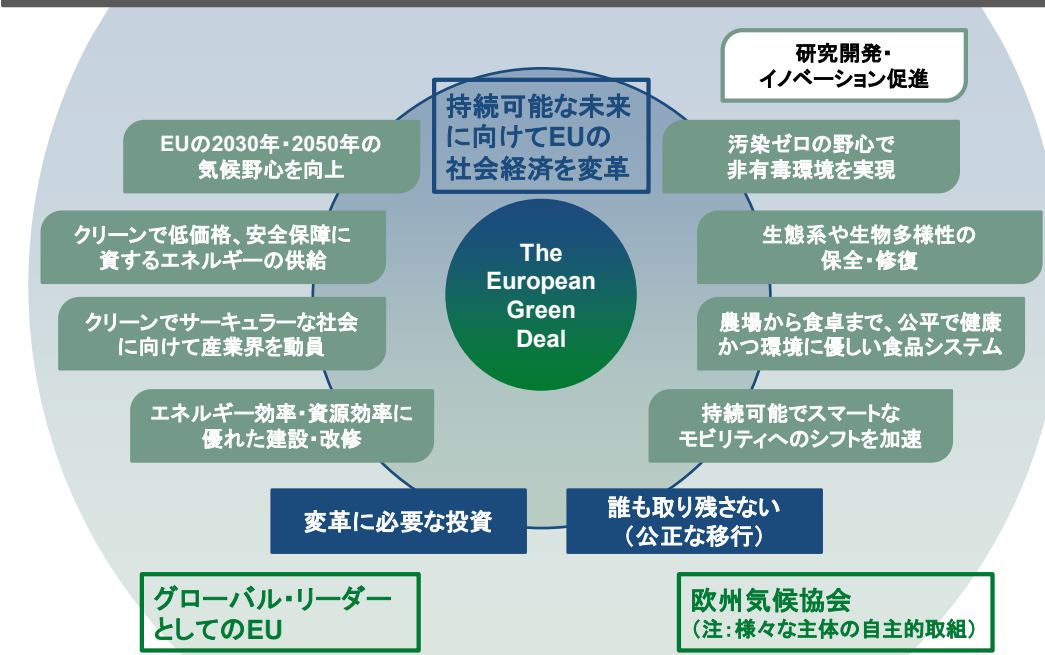
- デジタルトランスフォーメーション(DX化)、環境先進国であることから、ヒトと地球の健康の融和という概念も受け入れられやすい



(出所) スライドシェア, <https://www.slideshare.net/AlainLarousse/e-estonia-the-epic>, (Access, 2021-06-25)

(出所) 欧州連合日本政府代表部, (2020)「EU情勢概要」

## 欧州グリーンディール(EGD)の全体像



(出所) 欧州委員会 “The European Green Deal” (2019.12.11付 COM (2019) 640 final)  
Figure 1: The European Green Deal をもとにEU代表部作成

# プラネタリーヘルスの課題とこれから

## 1. 超学際的な取り組みを推進できるか？

### これからの健康改善に求められる超学際的アプローチ

- 医療者はPHを推進するための中心的な役割を担うことが期待されており、より多くの医療者がPHの概念を理解し行動することがランセット誌を通して呼び掛けられている
- 世界の疾病構造が転換しつつあり、主要な健康課題がNCDsとなってきた現在は、医療からの介入・投入に見合うだけの成果を得ることが困難となってきている
  - \* NCDsは薬などの医療介入だけでは解決できず、予防的なアプローチも必要となる
- 医療のみによる介入に固執するのではなく、多岐にわたる分野との統合・融合による新たなアプローチがこれからの健康政策には求められる

### より多くの医療者をPHへ巻き込む

- 医療者が単に病院に所属し医療を提供するのではなく、様々な分野、企業、機関に所属し、その専門性を他に融合させながら、包括的に人の健康に貢献する社会がPHを促進する
- 看護師は医療従事者の中で圧倒的に母数が多く、集団による社会への影響力が強い。PHを通じた次世代教育も強化し、PHの視点をもつ看護師を育成し社会へ融和させる

(出所) 門司和彦, & 渡辺知保, (2014). エコヘルス:健康転換後の健康像. 医学のあゆみ, 248(12).

(出所) Kurth, A. E, (2017). Planetary Health and the Role of Nursing: A Call to Action. Journal of Nursing Scholarship, 49(6), 598–605.

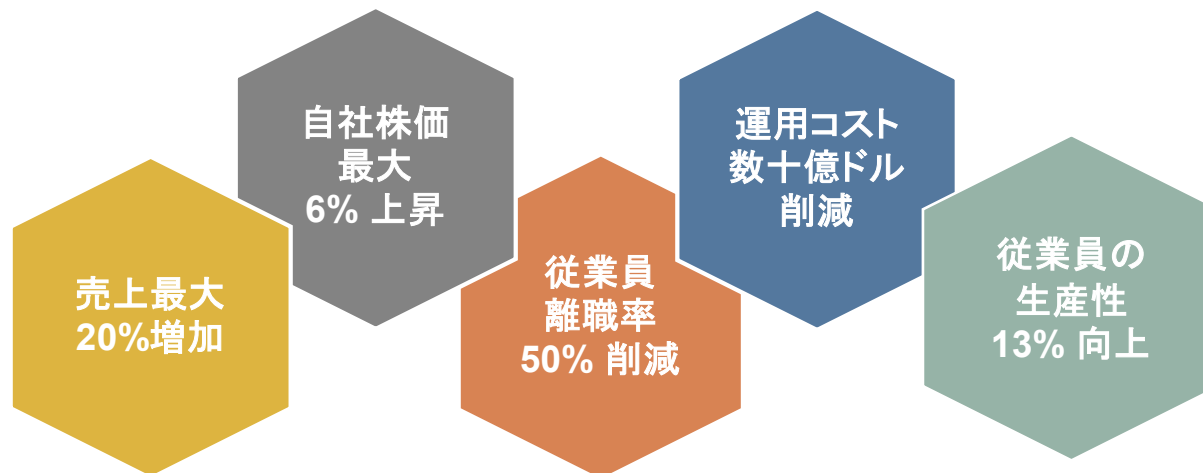
# プラネタリーヘルスの課題とこれから

## 2. 民間企業を巻き込めるか？ 経済活動と地球環境との両立

- 民間企業は革新的なソリューションの実装者としても欠かせない存在であり、企業の経済活動は社会全体に対しても大きな影響力を与える
- これまで対極にあった経済活動(推進力)と地球環境との両立をはかり、それぞれの活動を同じ方向へ導く
- PHへの貢献可能性を模索を通じて、単なる社会的責任(CSR)にとどまらずに製品・サービスへの付加価値として提供することや、新たなビジネスチャンスとして活用する
- ESG投資やその他直接的に企業の利益となりえる情報をエビデンスに基づく数値として示していくことが求められる

例) United Nations Global Compactレポート

気候と環境に対して統合的アプローチをとる企業は、重要な主要業績評価指標 (KPI) において競合他社を凌ぐ



(出所) United Nations Global Compact, (2019) BUSINESS LEADERSHIP BRIEF FOR HEALTHY PLANET, HEALTHY PEOPLE

# プラネタリーヘルスの課題とこれから

## 3. プラネタリーヘルスとカーボンニュートラルの親和性を高められるか？

- 2015年パリ協定により、各国が温室効果ガス削減目標を設定するなどグローバルな気候変動対策が活発になり莫大な資金が投資され始めている
  - 日本政府も2020年12月に「グリーン成長戦略」を発表し、温室効果ガス排出を2013年比から26%削減することを目標に掲げ、あらゆる方向から対策を講じて2050年カーボンニュートラル実現を目指す
  - カーボンニュートラルの取り組みはPHの推進にも貢献できる
- 例) CO2削減に寄与するPH関連の取り組み

E-10. Santiago Biofactory @Chile



感染症 × 排水処理 × バイオガス × 生態系回復  
× CO2削減 × 民間企業

E-9. Restoring Peatlands @Russia



NCDs × 湿地回復 × 自然火災リスク減少 ×  
CO2削減 × アカデミア

D-7. Today's solutions for future of Food:  
Food app " Too Good To Go" @Europe



低栄養 × NCDs × フードロス削減 × アプリケー  
ション × CO2削減 × スタートアップ企業

(出所) 環境省, (2018). 平成29年版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 (概要) 環境省.

(出所) 内閣官房, 経済産業省, 内閣府金融庁, 総務省, 外務省, 文部科学省, 農林水産省, 国土交通省, & 環境省. (2021). 2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略.

(出所) Too Good To Go International. <https://toogoodtogo.org/en>, (Access, 2021-06-25)

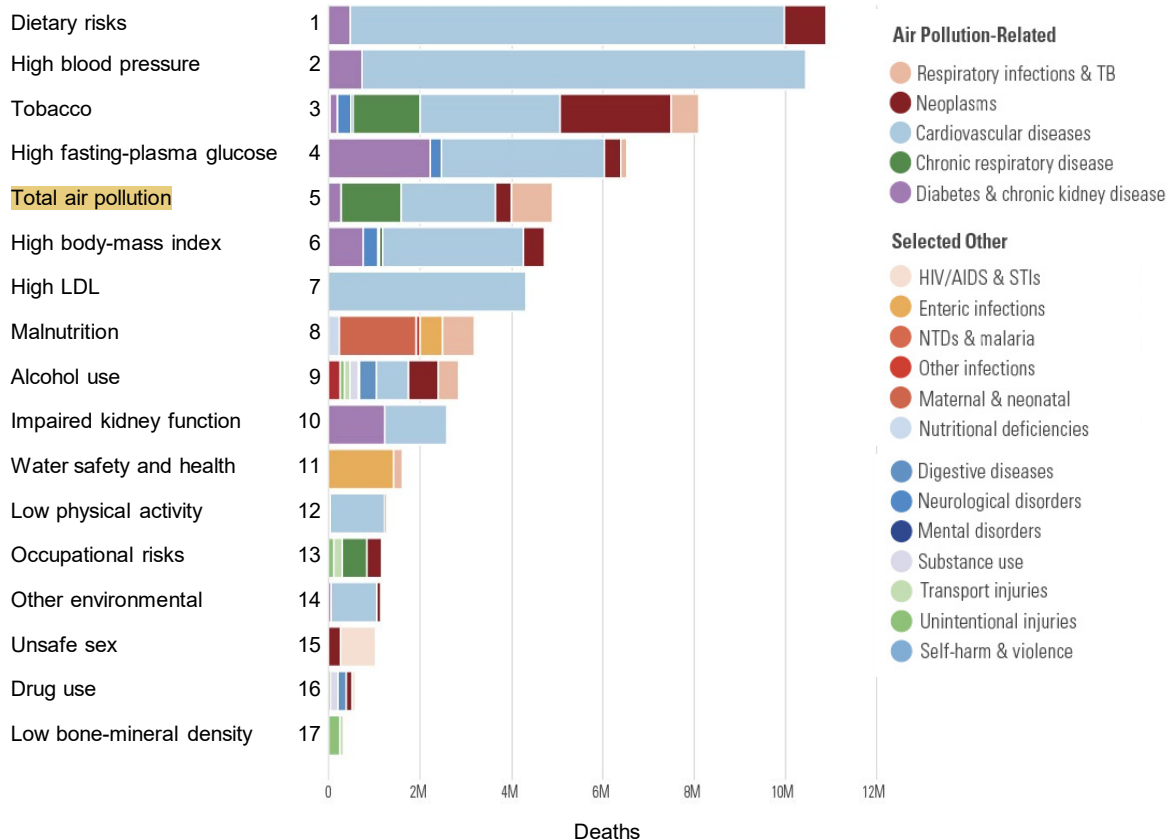
(出所) UNFCCC. <https://unfccc.int/climate-action/momentum-for-change/planetary-health>, (Access, 2021-06-22)

# プラネタリーヘルスの課題とこれから

## 3. プラネタリーヘルスとカーボンニュートラルの親和性を高められるか？

- CO2やPM2.5等の大気汚染物質が与える健康への影響は立証されてきている
- 世界の6人に1人は大気汚染関連の疾病による死亡であるとの報告がある
- 民間企業も単にCO2や大気汚染物質削減目標を設定するのではなく、削減により保証される健康や命があるというPHの理念も掲げること、より合理的な目標として多くの求心力や理解を得ることが可能となる

Global ranking of risk factors by total number of deaths from all causes for all ages and both sexes in 2017



- カーボンニュートラルや大気汚染対策という異なる政策・理念間におけるコベネフィットもより強調し、より多くの企業からのコミットメントを獲得する

(出所) Health Effects Institute, (2019) State of Global Air 2019. Special Report.



# プラネタリーヘルスの課題とこれから

## 4. プラネタリーヘルスへの誤った理解、形骸化を防げるか？

---

- プラネタリーヘルス(地球の健康)という用語は強いメッセージ性を持ち、多くの人々を一つの共通目標に向かわせる推進力をもつ一方で、誤った解釈は誤った方向性へ人々に向かわせる危険性もある
- PHを短絡的に環境保全活動と解釈してしまうことで、本来の意味の半分しか担うことができず、ヒトの健康観点が欠落した従来の環境保全活動へと帰結してしまう
- ヒトの健康と環境のつながりを意識することで、環境問題をより身近に、かつ自分ごととして捉えられるようになる
- 研究者と一般大衆の間での理解の違いも大きな壁となりえる
- より広範なバウンダリーを超えるヘルス概念という意味合いでも、大学等の研究者育成機関だけに限らず、社会に開かれた教育として地域・コミュニティーに根ざした生涯教育となりうる環境、基盤づくりも必要である

---

## VIII.さいごに



## さいごに

---

- プラネタリーヘルスとは人間と地球の持続可能な共存を目指した、これまでの健康概念を包括した新たな概念である
- プラネタリーヘルスの名の下により多くのステークホルダーを結集させ超学際的な取り組みを導くことで、既存の枠組みでは対処できなかった様々な健康課題と地球規模課題の解決が期待される
- 民間企業は革新的なソリューションの実装者として欠かせない存在であり、経済活動と地球環境との両立をはかる道筋を描くことがこれまで以上に求められる
- カーボンニュートラル、大気汚染対策との共通の方向性を見据えた政策・理念との融和を図り、限りある資源の最適効率化をはかることも重要である
- プラネタリーヘルス(地球の健康)という明確で強靱なメッセージを正確に社会に浸透させ、誰もが健康を享受できる世界を目指す

## ご利用に際して

---

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、Center on Global Health Architectureの見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づく資料閲覧者各位の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、皆様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、「出所:三菱UFJリサーチ &コンサルティング(株) Center on Global Health Architecture」と明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい